

2021/8/11(水曜日)

主題：— 主イエスの権威を認め、みことばに信頼する信仰 —

目標：— 権威ある主イエスのことばをいただき、信じて、主の奇跡を体験する者になる —

キリスト伝 第二ガリラヤ伝道①

ルカの福音書 7:1～10

(新約聖書 2017 P123)

「ローマの百人隊長」

主イエスは選定された十二使徒を率いてガリラヤ地方をくまなく行き巡り、積極的な活動をされた。行く処どこにでも追いかけて来る群衆の前で、主イエスは病人を癒やし、悪霊を追い出し、死人さえも蘇らせ、救い主であるご自分の栄光を現わされたのである。

しかしその反対に、主イエスを救い主と認めない人々は、いよいよ不信感と敵意を募らせ、主イエスの言葉じりを捉え、陥れようとを策略まで巡らして対抗して来るのである。

そのようなとき、主イエスを驚かせた異邦人がいた。彼は主イエスを救い主と信じ、救い主に与えられている権威を信じた。そして主からみことばさえ頂けたら、病人は癒やされると言ったのである。これを称賛された主イエスはみことばを与えられ、奇跡は起きたのである。

この記事は、現代の私たちには特に必要な大切な事柄である。この「みことば信仰」により、私たちも主の奇跡を体験し、恵みを頂く者にされたい。

[聖書の学び] (百人隊長は1度も姿を見せず、自分自身で主イエスの所に行っていない)

I、主イエスへの百人隊長の願い

1、百人隊長に起きた状況の確認 (ルカ 7:1～5)

◎百人隊長は主イエスにしもべを助けて頂くため、どうしましたか？ (ルカ 7:3)

- ・ローマ兵とユダヤ人の関係は険悪で、普通は付き合わない。しかし、彼はユダヤ人の長老にお願いし、聞いてもらえる関係だった。

2、百人隊長 = 戦いの最前線にいる兵隊 100 人をまとめるリーダー。

自分も戦士で、殺戮も平気な人

①百人隊長の人柄 (ルカ 7:2,3)

- ・しもべ(奴隷)のために、そこまでの百人隊長である。
- ・自分が異邦人であることをわきまえている。

②百人隊長の信仰 (ルカ 7:5)

- ・ユダヤ人の神、真の神に対する信仰を持っていた。
- ・神に選ばれた民ユダヤ人に対する、尊敬の心がある。

Ⅱ、主イエスを驚かせた百人隊長の信仰 (ルカ 7:6~10)

1、百人隊長は主イエスに来て頂くことを辞退した。

①百人隊長の家の直ぐ近くまで来られた主イエスを止めた。

・ルカ 7 章 3 節には、「・・・助けに来て下さい」

・ルカ 7 章 6 節には、「私のような者の屋根の下にお入れする資格がない」

主イエスに対する謙遜だけではない何かがある。

②救い主である主イエスに対して、なぜ自分には資格がない、ふさわしくないと考えたのか？ (ルカ 7:6,7)

- ・考えられる事：異邦人だから。律法を守っていないから。罪人だから。
- ・主イエスに遠慮する必要があるのだろうか？

2、百人隊長の主イエスに対する信仰

◎ ルカ 7 章 7 節「ただ、おことばを下さい。」

- ・権威あることばにより、兵士は上官の言うことを実行する。(ルカ 7:8)
- ・皇帝以上の権威を持っておられる主イエスを認め、そのことばにより、しもべは癒されるという信仰 (ルカ 7:7,8)

3、主イエスの驚きと、しもべの癒し (ルカ 7:9-10 マタイ 8:13)

- ・群衆に向かって・・・
- ・マタイ 8 章 13 節「あなたの信仰のとおりになるように」

Ⅲ、おことばを頂くとは (自分の思い込みや閃きだけではない)

その事柄が神様の御心であると受け取り、みことばを頂くことにより、そのようになると確信することである。

- ①その事柄が神の御心かどうか祈る。
- ②その事柄が聖書の信仰と反しない事。
- ③平安がある。
- ④みことばが与えられ、信仰を支える。

(注意：みことばを求めて聖書を読むと、無意識にそれに合うみことばを探してしまう危険性がある)

- ⑤信頼できる人に相談し、賛成してもらえること。

* ディスカッション (心を開いて互いに話し合ってみましょう)

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。